

# あいち病害虫情報 最新情報

平成 23 年 6 月 16 日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除グループ

## 梅雨入り早い

梅雨入りが5月27日ごろと平年より12日早くなりました。気象予報によれば、向こう1か月は、平年と同様に梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなると予想されているので、病気の発生に十分な注意が必要です。

## いもち病の季節です

今のところ、いもち病の発生を確認していませんが、葉いもちは例年6月下旬から発生します。葉いもち対象の育苗箱施薬をしていない場合は、葉いもちの早期発見、早期防除を心がけましょう。なお、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第1号」では、6月15日までの葉いもち感染好適日の推定結果を掲載しましたので参考にしてください。

## ウンカの飛来に注意

セジロウンカは、梅雨前線の北上に伴い断続的に飛来する可能性があります。飛来状況は、適宜ウンカ情報として提供していきますので、防除の参考にしてください。

斑点米の原因となるカメムシ類は、畦畔や土手、さらに休耕田などで出穂したイネ科の雑草で繁殖しますので、除草などして多発を未然に防ぎましょう。

## 果樹の病害

モモせん孔細菌病の発生量が多い地域があります。また、丘陵地など風当たりが強い場所で多発しているほ場もあります。風を伴った雨で発生が急激に拡大するので、風当たりの強いほ場では防除を徹底しましょう。

ブドウべと病や黒とう病の発生を確認しています。特にブドウべと病は降雨が続くと短期間に発生が急増するので注意し、6月3日発表の「発生予察注意報第2号」を参考に防除しましょう。ブドウ晩腐病は7月中旬まで降雨が多いと発生が多くなるので、昨年発生が多かったほ場では特に注意し、罹病房は見つけ次第除去しましょう。

ナシ黒星病の発生は一部の地域で多くなっています。昨年多発したほ場では特に注意し、6月3日発表の「発生予察注意報第1号」を参考に防除しましょう。

カキ角斑落葉病および円星落葉病の感染時期です。昨年多発したほ場では伝染源が多くなっており、今後の風雨により感染しやすくなりますので防除を徹底しましょう。

## ナシヒメシンクイ

フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイ第1世代成虫の誘殺数は、平年並です。誘殺ピーク時期は地域によるばらつきがありますが、おおむね平年並です。今後とはぎれなく発生し、世代数を重ねるほど虫の密度が高くなります。モモ、ナシにおいて果実が食害されますので、収穫前日数に注意して防除しましょう。

## モモハモグリガ

フェロモントラップにおけるモモハモグリガ第1世代成虫の誘殺数は、やや少ない状況です。被害葉が目立つほ場では、収穫前日数に注意し、第3世代幼虫ふ化ピークを迎える6月第6半旬ごろに防除を徹底しましょう。

## チャノキイロアザミウマ

チャノキイロアザミウマの発生量は今のところ多くはありませんが、この時期は軟弱な葉や新梢で本種が増殖するので、不要な枝は取り除くなど栽培管理に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマの防除適期である第2世代の発生ピークは、JPP-NETを

利用し予測日を算出したところ、東海市6月18日、名古屋市6月19日、蒲郡市・豊橋市6月20日、岡崎市6月21日、豊田市6月22日、愛西市・南知多町6月23日となりました。ウンシュウミカンでは6月上旬から7月にかけて果梗部の被害が発生しやすくなり注意が必要です。また、ブドウでは、袋掛けまでに防除を徹底しましょう。

## トマト黄化葉巻病、キュウリ黄化えそ病の伝染源を減らしましょう！

施設トマト（促成・半促成栽培）の栽培が終了する時期です。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を伝搬します。次作トマトが黄化葉巻病に感染しないように、栽培終了後、施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

施設キュウリでは、キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を伝搬するミナミキイロアザミウマの発生が多いほ場が見られます。次作キュウリが黄化えそ病に感染しないよう、栽培終了後、施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

## キクの病害虫

白さび病は例年、梅雨期に感染が多くなります。発病が見られるほ場では同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。

### ○農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止

○ 農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。

○ 農薬の飛散防止に努めましょう。

- ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
- ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
- ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
- ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

○ 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

- ・ 農薬は、「普通物」と「毒物」「劇物」を区別して、鍵の掛かる場所に保管しましょう。
- ・ 農薬散布の準備中も、畑やハウス、自動車などに安易に放置せず、適切に管理しましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ  
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820